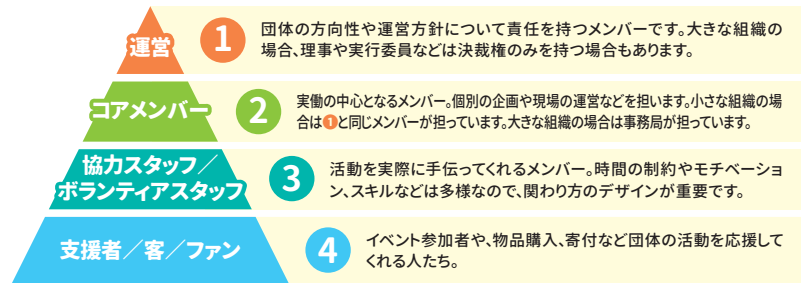


ビジネスの分野ではヒト、モノ、カネ、情報などを「経営資源」とみなして、その有効活用が会社を成長させるために大切だと考えられています。市民活動も団体を育て、持続的な活動をしていくために「活動資源」をどう活かしていくか?という視点が大切です。今回は、「ヒト」に注目して解説します。

図1 関わり方の条件・制約

図2 団体内での役割



対価を払ってその人の時間やスキルを自由に活用できるビジネスとは違い、市民活動団体に関わる「ヒト」の特徴は、図1のように人によってモチベーションや時間など、活動に関わる条件や制約が大きく異なる点です。

そのため、メンバー全員が同じように活動するのはほとんど不可能。だからこそ、一緒に活動してくれる人を集めるためには人それぞれの条件に応じた関わり方を用意することが大切です。

関わり方を考えるには、図2のような団体内での役割を意識してやることをおすすめします。市民活動団体を運営する上でありがちな失敗は、③協力・ボランティアをしたいという人たちに対して、活動の中心となるような②コアメンバーの役割をお願いして断られてしまうケース。また、④のお客さまばかりを集めてしまい、一緒に活動してくれるメンバーが増えずに運営側の負担ばかりが増えていくというケースなどがあります。どちらの失敗も関わり

方の条件と期待する役割のミスマッチが原因になっています。

活動資源である人を増やし、活動を育てていくためには、団体としてはどんな役割の人が必要なのか明確にすること。そして、個々人の条件に合わせた関わり方を用意することの2つが大切です。市民活動では、多様な働き方を認め合う働き方改革以上に、多様な関わり方を認め合う関わり方改革が必要と言えるかもしれませんね。

この団体ができること

私たち、「みんなの認知症予防ゲーム(あお-ねの会)」は認知症予防の講座を開催することができます!

誰もが安心して共に明るく生きる“共生社会”を目指して、子どもから大人・高齢者の方まで楽しめる認知症予防ゲームの教室を開催しています。地域の茶の間やサロンへも出向きますので是非お声掛けください(有償)。



協力してほしいこと 定期教室のお手伝いや、「認知症予防ゲーム」のリーダーとして一緒に活動したい方を募集しています。

活用しよう! 協働マッチングリスト

市民活動団体の「協力できること」「協力してほしいこと」をまとめたリストです。リストを開けば、助けになる団体、または力になれる団体がきっと見つかります!



センターからのお知らせ

広報物の作成に役立つ「七つ道具」を無料で使えます!

多くの枚数を「印刷したい」、配布のため「まとめたい」。そんなときは、協働センターに常備してある「七つ道具」を使ってみませんか?

- ① 印刷機
原稿と印刷用紙を持ち込み、チラシなどを白黒印刷できます。
※1原稿につき印刷枚数50枚以上3000枚以下をお願いします。
- ② 紙折り機
B6～A3までの用紙を2つ～4つ折りにできます。
- ③ 丁合機
複数の書類を簡単に組み合わせられます。
- ④ 穴あけパンチ
- ⑤ 大型ホチキス
- ⑥ 裁断機
- ⑦ ラミネーター
※ラミネートフィルムは各自用意ください。



利用可能時間 / 9:00～19:00(土日は17:00まで)
※営利・政治・宗教を主目的とした活動にはご利用できません。

協働センター

Q&A

よく寄せられるご相談

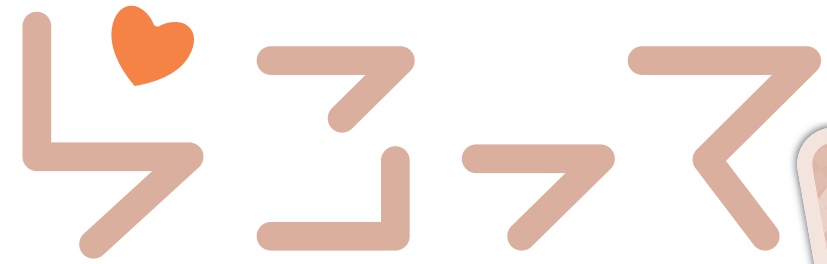
Q.メンバーのやる気がバラバラで困っています。

A.市民活動はビジネスとは違い、活動に使える時間、スキル、興味関心、モチベーションもそれぞれです。だからこそ、バラバラを前提として、バラバラでもできる活動のスタイルを考えることが大切です。

Q.いくらイベントを仕掛けても、一緒に活動してくれる仲間が増えません。

A.お客さんを集めるイベントをしても、なかなか活動の担い手は増えないもの。活動メンバーを集めるには、「講習会」「ボランティア講座」など、活動の担い手を育成するような企画を別途実施してみてください。

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。
要チェック!タイムリーな情報と協働センターの日常
Facebook: @NkyodoCenter Twitter: @nagaoka_kyodo Instagram: @mytown0258



Racotte vol.94

発行 ながおか市民協働センター

2020
10
FREE

今月のインタビュー

長岡市と世界をつなぐ若きアンバサダー
佐藤美優さん
活動地域 長岡
活動分野 | 地域づくり、国際交流
団体での役割 | イベント担当
特技 | 何事も前向きに捉えること
私の取扱説明書 | いつでもどこでもすぐに寝られる

男気溢れる与板のお祭り男
本村正一さん
活動地域 与板
活動分野 | 文化芸術
団体での役割 | 会長
特技 | サッカー
弱点 | 女性の涙

活動PickUp!

- 股旅あい好会
- 和島島崎地区まちづくり協議会
- まちなかコミュニティ食堂
- 長岡市錦鯉養殖組合

市民活動・虎の巻

市民活動の活動資源『ヒト』編
～多様な関わり方を受け入れよう～

この団体ができること

私たち、「みんなの認知症予防ゲーム(あお-ねの会)」は認知症予防の講座を開催することができます!

毎週月曜日17時頃から放送中!
つながるラジオ
ながおか市民活動紹介番組 | FMながおか 80.7MHz | 10分程度放送 第5月曜日を除く

ながおかの市民協働のポータルサイト
コライト、見ない!
協働センターのホームページ「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこマのバックナンバーも閲覧できます。
https://nkyod.org/ コライト

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！
活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。

佐藤 美優さん(18歳)
高校生／市民活動団体WA!!

2002年長岡市生まれ。様々な文化をもつ人が一緒に暮らせる長岡市をつくるために活動するWA!!の設立メンバー。将来の夢は、好きなことや特性を活かして国際的に活躍すること。



●長岡技術科学大学の留学生サークル「NUTISA」と共催したウォーキングツアー。20人以上の参加者に長岡市を案内し、その魅力を伝えました。



活動の根っこ
広げる つなげる
佐藤 美優

後輩へと受け継がれていくバトン
国際交流と長岡市の未来に懸ける想い

「市民活動団体WA!!」は、高校生が設立した、外国人と日本人が互いを尊重しながら暮らす多文化共生社会の実現を目指す団体。名前には「国籍問わず様々な人たちとつながり、大きな輪をつくっていききたい」という想いを込めました。立ち上げの中心を担ったのが、持ち前の行動力と明るさで団体を引っ張る佐藤美優さんです。

佐藤さんは、2019年に「AILA※」という国際交流プログラムに参加。様々な国の参加者とのディスカッションを通して異文化に触れたことが、活動を始めるきっかけになりました。「他の国の参加者は、日本人とは違い、相手の意見で違うと思うところはきちんと伝えていて刺激を受けました」。プログラム終了後も、こうした文化の違いを同世代の人たちに伝えたいと、他のAILAの参加学生と一緒にハロウィンパーティーを企画。学生から社会人まで様々な国の参加者が150人以上集まりました。この成功をきっかけに、WA!!を設立することに。「団体をつくると、イベントの開催が義務になってしまうのではないか」という意見もありま

したが、『外国人に対して偏見や差別のないまち』をつくるには継続が必要だと考えました。

団体運営で大切にしているのは、AILAで学んだ異なる意見を尊重し、結論を導き出すこと。現在は、新たなメンバーを加え17人で活動していますが、「学生の活動は卒業による世代交代が避けられません。後輩に私たちの想いを伝えていくには、遠慮なく話し合える関係性をつくるのが大事。敬語を禁止し、自分の意見を言い、相手の意見を聞くことを心がけています」と、設立メンバーとの間に壁ができてしまわないように気を付けています。

佐藤さんも、来春に高校を卒業し、OGとして活動を支えていくそう。佐藤さんをはじめとする設立メンバーの国際交流や長岡市の未来に懸ける想いは、後輩たちに受け継がれていきます。

※フォートワース市姉妹都市協会主催の「Advanced International Leadership Academy」という高校生対象の国際交流プログラム。

活動PickUp!

生の声は「ラジオ」「コライト」で！
「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

股旅あい好会

長岡に笑顔咲かす芸能一座

長岡



1996年に歌や踊り、お芝居が大好きなメンバーで一座を立ち上げ、現在は14名で活動中。高齢者センターやコミュニティセンターなど年間40～60ヶ所で、股旅劇やカラオケ、マジック等を披露しています。お客さんの喜ぶ顔を見ると、自分たちも元気になり、もっと上手になろうと練習にも精が出ます。今後も、依頼があればどこへでも、笑顔と元気を届けに行きます。

和島島崎地区まちづくり協議会

住民の力で地域の宝を輝かせる

和島



良寛が眠るお寺がある和島島崎地区を住民の力で観光に生かそうと、2006年より活動を開始。晩年の良寛に師事していたいしんに、貞心尼が書き残した歌集『蓮の露』にちなみ名付けられた「はちすば通り」に、花蓮鉢を設置したり、人工池を作って多種の花蓮を管理したりしています。また、良寛史跡の清掃活動や竹灯籠の設置など、年間を通して活動中。住民同士力を合わせて、次世代につなぐまちづくりを行っています。

とにかく祭りが大好き！
新しい祭りの在り方と伝統の継承を模索

「僕にとっては、祭り最終日が大晦日！次の日からは、来年の祭りに向けた新しい1年が始まるんです」と笑いながら話す本村正一さんは、与板十五夜祭りの屋台の継承を目的に活動する「与板屋台保存協議会」の会長。地域からの人望も厚い、自他共に認める「与板のお祭り男」です。

与板十五夜祭りは、与板町の総鎮守「都野神社」の秋季例大祭です。江戸時代から継承されてきた屋台の修繕費用を工面する必要性や、少子高齢化により祭りの担い手が不足している現状を踏まえ、2016年に「与板屋台保存協議会」を設立し、会長を務めてきました。「町内を回って屋台の修繕費用の寄付を募ったり、後継者育成に力を入れたりしてきました。行政支援を最初からあてにはせず、まずは地域内で取り組むことが筋だと思っています」。

また、祭りの担い手を増やそうと、昔からの習わ

しではタブーとされてきた「地域外からの参加者の受け入れ」にも積極的。過去には与板町で英語教師をしていた外国人男性を受け入れたことも。「古くからの伝統はもちろん大事。でもいつまでも与板の人たちだけのものだと、祭りは絶対に長続きしないと思う。これからは他の地域から来た人たちも巻き込んで、楽しい祭りをしていきたいです」。

本村さんを突き動かすのは、若い世代に祭りを残していきたいという熱い想いです。「都会に移り住んだ若者も多いけれど、皆祭りが好きなんです。お盆には帰ってこなくても、祭りには必ず帰ってくる若者も多いんです。皆小さい頃から祭りを見て育っているから、祭りを大切にしている気持ちをもってらるんです」。

令和時代の祭りの在り方と伝統の継承を模索する男気溢れる本村さん。お祭り男の奮闘はこれからも続きます。

本村 正一さん(65歳)
与板屋台保存協議会

1955年長岡市生まれ。地元長岡市与板町にて与板十五夜祭りの中核を担う傍ら、与板地区スポーツ協会の会長も務めるなど、多方面で活躍中。



●都野神社境内に続く屋台坂、各町内の屋台が笛や太鼓のお囃子にのって登る「万燈・登り屋台」。本村さんは20代の頃から、一家の代表として祭りに携わってきました。

活動の根っこ
何事にも魂を込める！
本村 正一

まちなかコミュニティ食堂

誰もが気軽に参加できる地域食堂

長岡



誰でも気軽に参加できる地域食堂を目指し、2019年11月から表町コミュニティセンターで月1回開催しています。密を防ぐため活動を自粛していましたが、2020年8月よりお弁当配布という形で活動を再開しました。これからも地域の赤ちゃんからお年寄りまでが、会食を通して楽しいひと時を過ごし、つながり合い、支え合うことで、子ども達が「ここで育ってよかった」と誇れるような地域を目指していきます。

長岡市錦鯉養殖組合

「泳ぐ宝石」錦鯉の魅力を多くの人に広めたい

長岡



錦鯉発祥の地である長岡市で、錦鯉の養殖業を営む約160の業者から成る組合です。毎年10月下旬には、世界で最も歴史が古いとされる長岡市錦鯉品評会を開催しています。また、錦鯉のふれあいイベント、小学校や各国の大使館への錦鯉の寄贈、市の魚や国魚制定への働きかけなどを通して、身近な場所から世界各国まで錦鯉の魅力を広めています。

みんなの声

投稿テーマ 「長岡みんなのSDGs」

投稿
随時募集中

投稿方法
投稿フォームを使う
協働センター窓口で投稿する

QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。
協働センター窓口には設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。



投稿者
Georgeさん



2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の目標「SDGs」に関する投稿を掲載しています。

SDGsに関する詳細は、2020年度らこって4月号の「虎の巻」をご覧ください。

昨年の11月まで長岡に住んでいました。その際に【Picking Up Mind】と言う月に1度ゴミ拾いをする団体の方と知り合いました。それからと言うもののイベントのときには皆さんで長岡駅前のゴミ拾いをするようになりました。現在は長岡を離れてしまいましたが、最近でも車にトングとゴミ袋を積んでいるのでショッピングモールなどの駐車場に停めた際にゴミが目についたら拾うようになりました。これが今のところ私に出来るSDGsです。